

# 加藤敬弘先生定年退職にあたって

学長 木 暮 至

加藤敬弘先生は、昭和15年4月広島県の西城町でお生まれになり、本学経済学部を卒業して、早稲田大学大学院（修士課程）と青山学院大学大学院（博士課程）に進学されました。この間、昭和42年5月に本学の助手として採用され、研究者として第一歩を踏み出されたのですが、爾来、39年間という長きに亘って研究と後輩たちの指導に献身的な努力を捧げてこられたのです。そして、この平成18年3月31日をもちまして高崎経済大学経済学部をご定年になり、ご退職なされることになりました。

先生、長い間ほんとうにありがとうございました。先生は本学の教師としては39年ですが、学生としての4年間を加えると実に43年間の高経大生活ということになります。創立48年の本学には、まさにこの人ありで、先生の業績とその貢献を考えあわせると、「敬弘先生を抜きにして本学は語れない」と言っても決して過言ではありません。

先生は、「ケインズ経済学研究」を修士論文で取り上げられ、徹底したケインズ研究に立って、その使用者費用概念を分析手法として援用し、天然資源の有限性に着目してスタグフレーションの原因の1つを見事に解明して見せてくれたのです。そして、さらに先生は環境と経済学の関係について常に関心をもたれながら、環境資源特有の性質に基づいた経済分析の考察を進めてこられたのです。先生の研究テーマは、一貫して「経済学は環境問題にどう関わることができるのであろうか」と言うことであり、経済発展と環境保持との関係について、特に、エコロジーからの持続性と人的持続性という側面から論及したいと考えておられるのです。

先生は、このような学問研究への真摯な態度を示す反面、茶目っ気たっぷりにすぐ「威張ってみせる」のもこの先生の大きな特徴と言えましょう。しかし、先生が、小さな子供を童心に戻って（いや、全く子供になりきって）あやしているお姿を拝見したことのある者にとっては、そんな虚勢が通じるわけはありません。一見、厳しい先生のお言葉の中には、常に、公正で論理的な意味が込められております。野心的な研究によって鍛えられた鋭い眼光と、心優しい温かい眼差しを持った先生の雰囲気私たちに大きな共感と感動をもたらしてく

れるのです。

先生は、また、大学行政、地域貢献についても多大な貢献をなされてきました。学生委員長1期と学生部長4期の連続記録は、誰も破れないでしょう。先生が作られた「学生の不正行為の処分について」は、最も良く考えられたもので今日でもなお使用されております。また、ラトロウブ大学との協定にこぎつけられたのも、先生の国際交流委員長時代でありました。そして、職業安定審議会や情報公開懇話会、個人情報保護審査会、地方労働委員会等々の多くの委員や会長という要職を歴任され、大学と地域の発展にも多大な貢献をなされてきたのです。

加藤敬弘先生、長い間、ほんとうにご苦労様でした。ありがとうございます。今後は特任教授として学生指導をお願いすることになりますが、どうか私たちにとっても身近な相談者としてこれからも宜しくご教示願えれば幸いです。先生の益々のご発展を心から祈念しております。